

● 6月26日(火) 快晴 久慈 ~ 平庭高原 ~ 焼走り

・昨夜は寒くてあまり眠れなかった。外が明るくなったので時計を見たらまだ4時前、北の夜明けは早い。気温は10°Cを割っていて、低温注意報が出ている。外に出てみると駐車場には私のほかにあと2台しか泊まっていない。寂しい道の駅だな。しばらくすると太陽が顔を出した。雲一つない快晴だ！

・今日から山バージョン「北海道山紀行」を始めるのだが、まず東北の名峰「岩手山」を登ってから北海道へ渡ることにした。ということで今日は岩手山の麓「焼走り」へ向かうことにする。

・朝食を簡単に済ませ、車内の整頓整理をしてから早々に出発した。時間はまだ6時半と早いですが、早く着いて洗濯やら登山の準備やらしたい。西へ向かって久慈川沿いに国道281号線を走る。しばらく走ると平庭高原に出た。平庭高原は、大学のワンゲル3年のとき私がリーダーとなって久慈から盛岡まで歩いた時通った懐かしいところだ。その時はこの辺は「日本のチベット」といわれていて、道路も無ければ家もない、放牧された牛が走り回っていた。林の中で牛に追いかけて怖い思いをした記憶がある。今はすっかり切り開かれてリゾート観光地となっている。駐車場に車を止めて新緑の白樺林を



平庭高原

抜けて富士見平まで歩いて見た。ここから平庭岳、遠別岳を超えて葛巻へ歩いたと思うがあまり記憶にない。今日は富士見平で目の前にそびえる岩手山を眺めて引き返した。



ベニバナイチヤクソウ、イチヤクソウ、マイズルソウ、ギンラン、オダマキ、アズマギクなどが沢山咲いている楽しい道だった。



・今まだ8時半、道の駅「くすまき高原」「石神の丘」と通って岩手山の入口「にしね」に10時半に着いたが真夏の太陽がギンギンに照りつけて暑くてとてもいられない。そこで明日の岩手山登山の偵察も兼ねて登り口の焼走りの高原へ登って見た。ここは標高500mでさすが涼しい所で焼走り国際交流村という広大な施設がある。キャンプ場やコインランドリーがあるのかと思ったが、グランドゴルフ施設と日帰り入浴「焼走りの湯」があるだけで、人もほと



岩手山を背に焼走りの湯

んどいないただ広々とした高原が広がっているだけ。水道があったら洗濯でもしようかと思ったが出来なかった。日差しは強烈で暑いが、さすが高原だけに木陰は涼しくて実に快適。パソコンをしたり昼飯を食べたりしてのんびりと過ごした。

・ここ焼走りは国の特別天然記念物に指定されている岩手山焼走り溶岩流への遊歩道がある。焼走り溶岩流は岩手山の中腹から噴出した溶岩が固まったもので、案内によるとその長さは約 2.8km、最大幅約 1.0km、面積は特別天然記念物の指定面積で 149.63ha もあるそうだ。岩手山を背にして広大な溶岩流の中に作られた遊歩道を歩いた。遊歩道と云っても舗装など無く溶岩の上を歩くので、スニーカーではかなり足裏が痛くてつらかった。もちろん木陰など全く無い道で、真夏の直射日光に照らされながら約 30 分の散策。大汗をかいて出口に出た。自動車道を歩いて焼走りに戻ったがそれこそ汗びっしょり。急いで「焼走りの湯」に飛び込んだ。料金は 500 円でなかなかいい温泉だった。町からはかなり遠い高原にある日帰り温泉だが、平日だということにお客さんも結構大勢いた。

・焼走り高原でゆっくりしてから道の駅「にしね」に下った。5 時を過ぎ太陽が傾くとすっかり涼しくなり、ビールがうまい。明後日お世話になるペンション「だもん」の永盛さんに電話したら元気な声が返ってきた。明日は岩手山に登る。

朝早いので 6 時半に就寝、外はまだかなり明るい。



## ● 6月27日(水) 無風快晴 岩手山(2038.2m)

・朝 3 時半に起床。外はもう明るい。空を見上げると無風快晴だ！

朝食後 4 時半に道の駅を出発し焼走りへ向かった。焼走りの駐車場ではすでに若者 3 人が結構重装備の登山準備をしていた。今日はどう見ても快晴で天候安定と思われるので、私は荷物を少なくして小ザックで 5 時に出発した。まず登山者カードに記入した。登山口から林の中の長いアプローチを少し歩いたところで、先ほどの重装備の若者 3 人がすごいスピードで歩いてきてあっさりと抜かれた。約 2 時間歩いたところ



で林を抜け出し今度は砂礫の急坂の登りとなった。まだ朝 7 時過ぎだというのに、砂礫ですっかり木陰の無くなった登山道を、真夏の太陽が容赦なく照りつけてきた。苦しい登りだが道の両側にはコマクサが咲いていてその群生が延々と続いているので、疲れを忘れて登ることが出来た。

・しばらく登るとコマクサの咲く暑い砂礫地が終り  
また涼しい林の中へと入った。林の中の道の両側には  
今度はシラネアオイが咲いていて、この群落も  
延々と続いていて目を楽しませてくれた。なんと  
花の多い楽しい登山道だろうか。



シラネアオイの群生が続く



コマクサが一面に咲いていた

・林の中で先ほど抜かれた若者3人がもう下って  
くるのと出くわした。彼らは岩手県警の救助隊で、  
笠不動避難小屋に避難していたお年寄りを救助  
に向かっていたとのことだった。どうりで重装備  
で、強いはずだ。昨日80歳超のお年寄りが一人

で登り、足がつって動けなくなり、避難小屋で一夜を明かして救助要請をしたとのこと。自力で歩くお年寄りをかばいながらゆっくり下っていった。

・4時間かかってやっと笠不動避難小屋に到着、現在  
9時だ。久々の登山なので少々疲れたな。見上げると  
山頂付近が青空の中に聳えている。あと標高差で400  
m、1時間の行程だ、頑張ろう。ここからは富士山を  
思わせる溶岩の砂礫の急坂をザクザクと登る。標高が  
高いので気温は涼しいが無風、直射日光が照りつけて  
めちゃくちゃ暑い。喘ぎながら登ること約1時間、  
やっと山頂に立った。ちょうど10時だ。

・すごい眺めだ！ 秋田駒ヶ岳、八幡平の山なみが  
すぐ目の前に望まれ、遠くに鳥海山がかすんで見える。



登りの途中から笠不動避難小屋を見下ろす



・この山頂へはいくつものルートが集まっているが、朝早い  
ためか、平日のためか、こんなに天気がいいのに山頂には  
数人しかいなくて、静かで良かった。見知らぬおじさんと  
写真を撮り合い、眺望を満喫した。岩陰で昼食をとるなどして  
30分くらい山頂で休んでから、10時半に下山を始めた。

・私の下山は早い。13時半前に焼走り駐車場についた。登り5時間、下り3時間の岩手山だった。標高差1400m登りっぱなしのきつい山だったが、快晴に恵まれた上にコマクサやシラネアオイの群落の中を歩くことができ、楽しい山だった。

・溶岩流遊歩道の入口で番をしているおじさんがいるので、「どこか手や顔を洗える水道は無いですか？」と尋ねたら、「奥のキャンプ場にあるよ」ということで行ってみたら、なんと炊事場がいっぱいあって水道がいくらかもある！早速洗濯を開始した。下着、シャツ、長袖、チョッキ、ズボン、靴下と今まで溜めていた洗濯物を一気に洗った。まだ2時過ぎなので真夏の強烈な日差しがガンガン乾かしてくれた。木陰で涼みながらこれからの予定を検討していたら、道の駅「雫石あねっこ」には風呂もレストランもあることがわかり、今夜は雫石泊まると即決。なま乾きの洗濯物を取り込んで、約50km先の道の駅「雫石あねっこ」へ急行した。

・なかなか良い駅だ。風呂に入ってさっぱりし、レストランへ。今日の岩手山で東北での予定はすべて終了、明後日からは北海道へ渡るので、無事完了を祝して豪華な夜食となった。雫石牛のタタキサラダを肴に生ビールで乾杯！この雫石牛のタタキサラダはなかなかいける、Good! ビールを2杯空け、主食はプルコギ丼で閉めた。客は私の他にチラホラで寂しいかぎり、この店これでやっていけるのかな？ほろ酔いのいい気分を店を出てそのまま車のベッドに潜り込んだ。



・岩手山登山道は各方面から何本も入っていて、どのコースも長くて大変だが、今日登った焼走りコースはコマクサやシラネアオイの群生の中を歩き、サンカヨウ、エビネチドリ、ツバメオモト、マイヅルソウ、キバナスミレなどの花が豊富で実に楽しいコースだった。

## ● 6月28日(木) 快晴 ペンション「だもん」

・昨夜は良く寝た。トイレも行かずに朝4時に起きるまで熟睡した。久しぶりの登山の疲れと満足感で安心して寝られたのだろう。今朝も雲一つない快晴で、気温は12℃と爽やかだ。今夜は久しぶりで雫石のペンション「だもん」に泊まり、オーナーの永盛さんとゆっくり語り合うことになっている。非常に楽しみだが、それまで何をしようか。こんなに天気の良いのなら秋田駒へでも登れば良かったなと思いつきながら、のんびりと朝食をとった。

・まあ今日は盛岡の町へ出て買い物でもしようか。馬鹿でかいイオンに行って涼みながら買い物をしたり、ウインドショッピングをしたりしてブラブラ時間をつぶした。なにしろ外は日差しが暑くてとてももられない。涼しい高原へ逃げるしかない。今日は柳沢コース登山口の馬返しへ行ってみよう。

・馬返しに12時半に着いた。舗装はしていないが広い駐車場には車が20台くらい止まっているが岩手山に登っているのだろうか。さすが標高630mの高原は、日差しは強いが木陰に入ると涼しくて気持ちがいい。駐車場の上はキャンプ場になっていて、炊事場やトイレが完備されている。昼食を摂って洗濯をして木陰でのんびり休息してから、周辺の散策に出た。キャンプ場の奥に避難小屋のような立派な建物が建っていて、右の方に「奥又清水」という名水が湧きでている塚があって、その右手に登り口がある。下から土地のおじさんが登ってきた。「これから根曲がり竹のタケノコを取りに行くのだが、一緒に行かないか」と誘われたが、かなり上の方のようなので丁重にお断りした。そのおじさんは私と同年代で、しばらく立ち話をして戦後のよき時代の話に花が咲いた。職業は大工さんで、昔ミカン

農家の普請で湯河原へのも行ったことがあるという。  
・なにやかやで時間が過ぎ4時を回ったので、網張のペンション「だもん」へ向かった。ここからはすぐ近くで30分もかからない。

久しぶりに綺麗でかわいいペンション「だもん」に到着、奥様が迎えてくれた。オーナーの永盛さんと早速網張温泉へ。昔かなり汚くて暗い印象のある温泉だったが、今はリニューアルして、すっかりきれいになっていた。名湯をゆっくりと楽しんだ。

・今日の泊り客は私一人。奥様は私が血糖値が高いことを覚えていてくれて、カロリーを考えたヘルシーメニューのご馳走を用意してくれた。積もる話が盛り沢山、10時前まで飲んで食べてお話をして楽しい時をすごした。すっかり良い気分で2階3号室で熟睡した。



### ● 6月29日（金） 快晴 ペンション「だもん」 ～ 秋田港 （東北紀行最後の日）

・朝5時 清々しいお目覚め。今日も天気がいい。朝食前にペンション村を30分くらい歩いて一周してみた。きれいなペンション、荒れ果てたペンションなど様々、どのペンションにも宿泊者の気配が無くひっそりとしている。景気が悪いな！これから夏が稼ぎ時か。



・朝食は洋食、実に綺麗でおいしい食事だ。窓際に白樺の葉が揺れる明るい食堂で一人静かに食事を頂いた。満腹で動けないくらいだ。食後、今まで回ってきた被災地の様子や、一昨日の岩手山のことなど写真を見せながらお話し10時頃まで過ごした。



・ペンションの前でみんなで記念撮影し、永盛夫妻に見送られて出発、秋田港へ向かった。

・今日も快晴の炎天下、網張から国道45号線に向かって下ってゆくとつれて気温がぐんぐん上がってゆき、車外温度が36℃を指している。国道45号線に出て西へしばらく走ると、なんと！一昨日泊まった道の駅「雫石あねっこ」に出た。ちょっと寄って先を急ぐ。道の駅「協和」で昼食をとり、炎天下を避けてしばらく休息してから秋田港へ向かった。

・15時過ぎに道の駅「あきた港」に着いた。  
駐車場の片隅でおばちゃんが「ババヘラアイス」を  
売っているのを買って食べた、200円。



・ここには「セリオン」という商業施設があり高さ  
100mのタワーが立っている。無料ということな  
ので最上階の展望台へ上って見た。素晴らしい展望が開け秋田市が一望できた。



・やることないので少し早いけど5時すぎからビールを飲み始め夕食開始。まだ太陽はがんがん照りつ  
けている。「ババヘラアイス」のおばちゃんといろいろ話をしながらの楽しい夕食。昭和10年生まれだ  
と！ こんな炎天下で一日中アイス売っている、元気が良いね。6時にアイスの会社からお迎えが  
来たので、資材を片付けて迎えの車に乗って帰って行った。

・やっと太陽が隠れて涼しくなってきた。明日は早朝にフェリーに乗って北海道へ向かう、今回の旅の  
前半が今日で終了する。今夜で本州ともお別れだ。三陸の被災地を南から隈なく回り、東北の名峰・  
岩手山にも登り、ペンションで旧友とも親交を温められた有意義な旅だった。

まだ外は明るい、明早朝フェリーで秋田港を出て北海道へ渡り、7月から始まる北海道の山紀行に  
思いを馳せながら車のベッドにもぐりこんだ。

前半・本州編 完